

## 公表

## 事業所評価アンケート総括表

○事業所名	清岳園いっぼ			
○ご家族評価実施期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年 1月31日 (無記名での実施)			
○ご家族評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	14名
○スタッフ評価実施期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年 1月31日			
○スタッフ評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業所評価アンケート総括表作成日	令和 7年 2月19日			

## ○分析結果

	事業所の強味(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご家族およびスタッフによるアンケート結果より『環境・体制整備』の項目に対して高い評価を得られた為、現状の維持及び強化できるよう引き続き努めていく必要がある。	余裕あるスペースを有効活用し、パーティションや机/環境調節をすることで、全てのお子様为目的別に個別で過ごせる環境を提供できている。また共有スペースを含め、小グループでの活動も提供できる空間も確保できている。 ASD/ADHDのお様方が全体数の9割利用されていること、また一人ひとりの障がい特性や発達に合わせるため、事業所内の生活空間については、視覚的に解りやすいよう構造化された環境にバリアフリー化する事に重点を置いている。 ※現在、車椅子を利用されている、また医療的にケアが必要なお様方は利用されていない状況である。	引き続き、安全を第一に「使いやすさ」「分かりやすさ」がある環境作りに努めていく。また事業所内の環境だけではなく、防災訓練時に安全計画を見直し、事業所玄関から送迎車両までの安全点検など、所外周辺的环境も随時確認し改善していく必要がある。
2	ご家族およびスタッフによるアンケート結果より『適切な支援の提供』の項目に対して高い評価を得られた為、現状の維持及び強化できるよう引き続き努めていく必要がある。	ご家族へは個人プロフィール表へお子様に関する情報を記述してもらい、実証されている特性シートの活用と直接観察しながらプロフィール内容を更新し、適切にアセスメントできるよう努めている。また計画書へはお子様やご家族のニーズや課題については、想いを代弁できる表現で記述している。利用毎のチェックリストでのモニタリングおよびケース検討会議(随時)を含め、課題に対して迅速に対応し修正できるようにスタッフ間で意識し日誌へ記述し、翌日からの対策等を示すよう努めている。	引き続き、インクルージョンの視点を持ち公共交通機関の利用や、地域の社会資源を活用した日常生活に必要なスキルが習得できる活動の幅を拡げていく必要がある。また一人ひとりのお子様のニーズや課題に応じて、将来的に支援者が変わっても、環境が変化しても困らないよう、個々の自立を見据えたスキルを習得できる活動や自己選択できる機会の提供に努めていく。
3	ご家族およびスタッフによるアンケート結果より『保護者への説明責任等』の項目に対して高い評価を得られた為現状の維持及び強化できるよう引き続き努めていく必要がある。	契約時を含め、年度毎に事業計画書ダイジェスト(ご家族へ配付)で運営規定/支援プログラム/各指針やマニュアルなどを説明している。また送迎時間や利用者負担額や各種加算取得に関するについても、毎年個別支援計画書へ記述し同意を得ている。	お子様やご家族との意思の疎通や情報伝達については、引き続きスケジュールやカレンダー/その他必要な情報などを、お子様の理解力に応じ、文字や写真・イラスト・絵などを活用し伝達していく。また言葉で想いを伝えられない場合にはABAなども活用し、行動が意味することや、どういった障がい特性が影響し合っているのかなどをアセスメントし、本来の想いをご家族等へ代弁することに努めていく。口頭のみでは解釈や捉え方の違い、伝達ミスやヒューマンエラーなどが発生する可能性があるため、できるだけ書面でやりとりすることに心掛けていく。
4	ご家族およびスタッフによるアンケート結果より『非常時に対応』の項目に対して高い評価を得られた為、現状の維持及び強化できるよう引き続き努めていく必要がある。	各非常時に合わせたマニュアルを策定し、事業計画へ反映、またご家族へも指針やマニュアルをまとめた別紙を配付し確認してもらっている。服薬/アレルギー/障がい/疾病などの情報については、救急搬送時や緊急時に合わせて、ファイリングしたものを各送迎車両や事業所内に完備している。昼食や飲食物の買い物や外食する際には、禁止されている飲食物の表を確認し購入物の選択時はスタッフが付き添っている。	引き続き、防災訓練時毎にBCP/安全計画の見直しをする機会を設けることで、移り変わる変化に対して確実に改善できる仕組みを実施している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p align="center"><b>&lt;関係機関との連携①&gt;</b></p> <p>『項目9(スタッフ):第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか?』に対して半数以上のスタッフが「はい」以外を選択していることから『外部評価』に対して着眼点を置き、改善できるよう努めていく必要がある。</p>	<p>過去に月に一度個人契約で第三者に訪問してもらう機会を設けていたが、現在は各学校の下校時間や、事業所への到着時間の差が大きく、平日に対応することが困難となり、第三者およびオンブズマンの受け入れが中止となった。</p>	<p>引き続き、相談支援専門との連携を外部評価として活用し、支援の課題を見極め改善できるよう努めていく。計画書・評価書作成時のサービス担当者会議等での意見交換の徹底と『ご家族との個別面談』にも必要に応じて同席してもらい、計画書と評価書の共有を含め、外部評価が得られやすいよう工夫していく。</p>
2	<p align="center"><b>&lt;関係機関との連携②&gt;</b></p> <p>『項目31(スタッフ):地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか?』に対して半数以上が「はい」以外を選択していることから『児童発達支援センターとの連携』に対して着眼点を置き、改善できるよう努めていく必要がある。</p>	<p>近隣に児童発達支援センターがないといった地域性の課題もあり、密に連携をとることは難しいことが現実である。</p>	<p>引き続き代替えとして当事業所主催の法人勉強会や各領域の研修をオンラインで受講できる機会を設け人材育成に努めていく。また感染症対策で中止としていたが、今後ご家族や関係機関にも参加してもらえる地域で開催する研修会を再開していく予定。最終的には地域の中核機能を担える事業所(中核機能事業所加算の取得を目指す)になれるようスキルアップするため、地域の関係機関との連携強化と当事業所主催の勉強会や研修会を開催していく。</p>
3	<p align="center"><b>&lt;保護者との連携&gt;</b></p> <p>『項目34(スタッフ):事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会の開催や情報交換および助言等する機会がありますか?』半数以下のスタッフが「はい」以外を選択していることから『家族支援』に対して着眼点を置き、改善できるよう努めていく必要がある。</p>	<p>家族支援の一環として、当事業所主催の自閉スペクトラム症についての基礎研修を地域で開催していたが、新型コロナウイルスの感染予防のため、令和元年の開催を最後に中止となっていた。スタッフの経験およびスキルの差異により、ご家族への相談援助技術不足を感じ自信がないといった想いが汲み取られる。</p>	<p>2の項目と重複するが、第一にスタッフ一人ひとりのスキルアップが必要不可欠であり、相談援助技術の向上を図るため引き続き当事業所主催の法人勉強会や各領域の研修をオンラインで受講できる機会を設けていく。また電話相談/事業所内相談/連絡帳での助言等にも引き続き努めていき、家族支援に繋がるよう当事業所主催の基礎研修を再開していく。</p>